



杵築市山香町を主要産地とする県のオリジナル品種「ヤマジノギク」が本年度、生産できない事態となっています。

① ヤマジノギクはどんな花ですか？

.....

県が育成の親株 ウイルス感染



「ヤマジノギクを植えるため既にビニールを張っていた」と話す杵築市の山香ヤマジノギク部会長の土師剛部会長＝杵築市山香町日指

杵築市山香町を主要産地とする県のオリジナル品種「ヤマジノギク」が本年度、生産できない事態となっている。県の育成した親株にウイルス性の病気が発生し、防疫のため今年出荷予定の苗を全て廃棄したことが原因。ヤマジノギクを収益の柱の一つに組み込んでいた県内の生産者は対応に追われている。

県によると、5月上旬、活性化センターで親株の一部の葉に変色が見つかり、キク壊疽病を起すウイルスの一種が確認された。調査の結果、県花きグループで育てている間に感染したとみられるという。ウイルスはトマトやピーマンにも広がることから、県は全ての親株を廃棄。本年度は生

産 2019年度の出荷額は約4300万円(約90万本)だった。例年、県農林水産研究指導センター農業研究部花きグループ(別府市)が親株を育成。その後、杵築地域活性化センターの施設(山香町内河野)で苗を育て、各地の農家に出荷をしていた。

ヤマジノギク今年絶望

② ヤマジノギクが生産できなくなっている原因は何ですか？

.....

農家落胆、収入減も 苗の供給受けられず



県オリジナル品種のヤマジノギク

産者への苗の供給ができなくなった。感染経路は分かっていないが、親株のあった花きグループの温室には、換気口などウイルスを媒介する虫が外部から入れる場所があった。現在は設備を改修しているという。県は生産者に状況を説明。代わりの品目としてヒマワリやコギクなどを紹介している。ただ、既に肥料やビニールなどを購入し園地を整備していた生産者もあり、年間を通じた営農計画を見直すざるを得ない生産者も多い。

JAおおいた山香ヤマジノギク部会(17人)の土師剛部会長(65)＝同日日指＝は「ヤマジノギクは高単価で、多く収穫できる収益性の高い品目。これから他の花に代えても売り上げ減は避けられない」と肩を落とした。販売を担当するJA全農おおいた園芸販売課によると、ヤマジノギクは県のブランド花として市場から評価を受けているが、1年間出荷ができないことで他の品種に取引先を奪われることも懸念されるという。県は「来年度は生産を再開できるよう万全を期して親株を育てる。全農とも連携して次の販売に影響のないようにしたい」と話している。(佐藤由佳)

③ 1年間出荷できないことで懸念されることは何ですか？

.....

④ JAおおいた山香ヤマジノギク部会長の土師剛さん(65)は何と話していますか？

.....